

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたガラス割りの運営により地域の信頼を得られよう努め、地元優先で入居者を受け入れるなどしているが特に理念上に地域密着型の意義をふまえたものはない。	管理者は職員採用時必ずしも介護技術を優先はしない方針で、利用者本意の地域での暮らしをどう支えるかに重点を置くことを基本的に考えていると職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に所属し地域行事に参加したりホームの行事に参加したりしている	地元で生産されたお茶を一年を通して使用している。また新鮮な野菜は季節ごとに近隣住民より頂く等日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年10月認知症サポーター養成講座を開催し多くの地域住民の参加を得た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状についてつづさに報告しそれにもとづく話し合いを行っている。ただサービス向上に直接結び付く意見はまだいただいていない。	2ヶ月に1度、其の日によって参加者や曜日は変更になることもあるが柔軟に開催している。ホームの抱える後継者問題や課題を管理者から提案をして話し合いをして、結果として事業所は4月からはNPO法人に移行とある予定である	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告を文書にて行い、現状の報告は行っているが行政の直接的関わりは得られていない。	主にホームの実情や課題を聞いていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる行為について理解し意識してとりくめていると思うがスピーチロックはなくなるらない。	拘束の状態の理解に努めている。例えば夜間のペット柵使用の範囲や家族の意見、歩行の不安定な利用者のかかわり、立ち上がり時の補助具の選び方と使用方法など書き出して話し合い改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	対応困難な入居者との関係において虐待に近い行為が行われたことがあり、感情的な対応は慎むよう戒めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的などりくみはできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分説明するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口はもうけているがここ数年苦情は寄せられていない。入居者が外部者に話せる機会は相談員の訪問時が主である。	利用者や家族の意見が引き出し易いように、食事会を開催している。以前施設で飼っていた犬がいたが衛生上の問題で台所への出入り禁止となったのは家族からの意見が反映された1例である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1～2回全員参加の職員会議を開きその際に意見を聞いている。	勤続年数の長い職員が多く、管理者に対する尊敬の念も強く、意見交換が充分出ているし反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれが一生懸命勤めていることに応えるよう給与面で配慮したり臨時職員を確保することで重労働を軽減するよう努めているが充分とはいえない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議のほかにミニ研修をセットで行い現場に必要な知識や技術の修得をめざし外部のけんしゅう		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	去年数回にわたり合同研修の機会を持ったが、その継続が課題、ひき続き県の組織に働きかけていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっての要望があれば聞くようにしている。また入居当初の不安を解消できるようにできるだけ関わりを密にするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接において家族の思いや要望を聞いてできるだけ応えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とおもわれることを把握して支援しているつもりである。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合うと言う関係を常に意識しとりくめている職員がいる反面そうでない面そうでない面を見せる職員もいるのが実情。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意識としてそう願っているが現実はそのような関係を築いていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	途切れがちである。	入所年数が長くなるにつれ家族、知人との馴染みの関係は途切れがちであるが逆に職員などとの関係は親密度を増して利用者の理解に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士が関わりを強められるようさりげなく援助したり、逆に気の合わない者同士がぎくしゃくした関係に陥らないよう意識して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後様子をう伺ったり訪問したりしてその状況把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	そのつもりでいる。	利用者と長くかかわりを持つ職員が多く、其の日の顔色や表情の少しの違いなどで判断できることも多い。職員間でも情報を共有して個々に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握すべく家族の知り得る範囲での情報を得たり、本人から直接聞いたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が介護計画をつくり家庭に提案し承認を得るという形でしかできていない。	本人や家族の意見はなかなか把握がしにくい。各担当と管理者が検討し作成している。家族にはその後承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日記に記録するが精一杯で個別記録ができていない。職員会議の中では多くの時間をさいって情報交換をし対応についてはなしあつている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能的なとりくみはできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診と緊急時の往診をしてもらっているが夜間など不安を抱えている。	往診は、定期的かつ緊急時にも近所の協力機関をお願いしている。状況により、入院の必要な場合や夜間の受診は佐久間病院とも提携し対応しているし、すぐ隣に住む管理者が手助けをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を確保できず、近隣に住む看護師に緊急時hあ相談・応援をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師から早めに情報を得たいと思っているがなかなか思うように得られない状況、早期退院については常に要望として医師に伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの利用限界や終末期の意向について年一回は家族に話したり聞いたりしているチームでの支援はできていない。	契約時に出来ること、出来ないことを家族に伝えている。状態を見て其の都度どのようにするかを話し合い理解を求めている。重度化した場合の往診は、現在週に3回まで協力が得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回は救急法の講習を行っているがいざという時に対応できるか不安を感じている職員は多い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や地震による避難の訓練は地域の皆さんの協力を得て年3回は行っている。その他緊急時についてのマニュアルはあるが職員が身につけているか疑問	4月、7月、11月の年3回近隣の住民の参加を得て行っている。高齢者の参加が多く協力は得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのように努力してるが時に感情的な対応をしてしまっている職員がいる。	家族より利用者にかかわる時間が長い職員が多くいる。親密なるがゆえ出てしまう言葉かけがあるが管理者は、其の都度確認して改めるよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを尊重しているつもりだが職員の都合に合わせてもらうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関われる入居者が少なくなったが片付けはできはできる範囲で手伝ってもらっている。	台所で一緒に料理や準備が出来る利用者は減ってきている。行事食や誕生会等で作る馴染みのおはぎや、柏餅などは一緒に楽しんで作っている。メニューは危険のないように魚の骨をはずしたり、温度の加減をしたり、お粥、刺身、揚げ物も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけそのように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	充分できていると言えない。本人まかせのケース。昼食後のケアがおろそかになりがち。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄をめざしている。	トイレ誘導には個々に対応して十分気をつけている。失禁予防で紙パンツを使用している人は1人のみであるが、起床時のトイレ誘導はタイミングが合わず失敗もある。今後の課題でもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため運動を促しているがなかなか応じてもらえないケースもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スムーズに入浴してもらおうためどうしてもその順番等職員の都合が優先してしまう。	13:30から14:30のおよその時間を決めている。2日に1度の間隔なのでゆったり入浴している。リフト浴の設備が備わり利用者の体力的負担の軽減となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのつもりでいる。対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の全容がわからないため事務室内に服用している薬を一覧にして掲示し常に見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが可能な仕事にとりくめるようにしているが充分できているとは言い難い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ外出の希望にそいたいと思っているができないことが多い。一日	事業所の周りは自然環境に恵まれて空気もいい為出来る限り毎日散歩に出かけているが、移動距離の長い遠方まではなかなか支援が難しい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持っている方は数人いるがその管理について特に支援はしていない。また大きな金額や多くの方について管理者が管理させてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家庭に働きかけをおこなっているが応じてもらえていないケースが多い本人からの要望には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不安や混乱を招くような空間にはなっていないと思うが居心地のよさという点でわ充分かどうか。	難聴の人も他者と同じようにテレビが観られる様にコンパクトなワイヤレススピーカーが用意されている。又椅子対応のコタツや、木調の椅子やテーブル、居間には寒さ対策で大きなストーブ等が配備される等、利用者重視の配慮があちこちに見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが思い思いに過ごせる空間は用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒や必要な家財を持ち込んでもらいその人らし居室となるよう努めている。	洗面とトイレが備わった和室が主であり、掃除や筆筒の中も利用者の意思を尊重して協力して行っている。本人で自室の鍵や仏壇を管理している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの力を生かせるよう対応するつもりでいるが充分できているとわ言い難い。		